、 実 習・ 准 看 護 師 試 験 サ ポ ー ト マ ガ ジ ン <sup>\*</sup>

## 看護学生



作って学ぶ!

# 准看護師試験



■ 重要事項の 穴埋め 部分を自分で

書き込み、予習・復習に活用できる!

□ 頻出テーマ のみの掲載で、

効率の良い学習ができる!



#### はじめに

本誌は准看護師試験の頻出項目の穴埋め形式のドリルです。1年生の皆さんには日々の学習の予習・復習として、2年生の皆さんには准看護師試験対策の学習に使っていただけるようなものを目指しました。この1冊があれば、准看護師試験で出題されている全科目の要点が網羅できます。また、メモ欄を活用することで"自分だけの"まとめノートを作ることができます! 准看護師試験当日まで活用していただければ幸いです。

『看護学生』編集室

#### 監修•執筆者一覧(執筆順)

小 林 身 哉 前·金城学院大学生活環境学部教授

鍋 倉 扶 美 児湯准看護学校·教務主任

松 本 雄 介 青梅市立総合病院薬剤部·部長

藤井眞理子 清恵会医療専門学院准看護学科・教務科長兼副部長

金 岩 里 美 同・教務主任

小豆嶋ひふみ 熊本市医師会看護専門学校医療高等課程准看護科・教務課長

平 野 晶 子 同・実習係長

榊 原 恵 美 同・専任教員

深川和美 同·専任教員

宮 井 教 子 小松市医師会附属小松准看護学院・教務主任

土井原佳香 同,専任教員

末松みどり 別府市医師会看護専門学校准看護学科・教務主任

林 元 子 高崎市医師会看護専門学校准看護学科・学科主任

小 川 綾 子 下谷医師会立看護高等専修学校·教務主任

笹 か お り 所沢市医師会立所沢准看護学院・教務主任

佐 久 間 直 美 同・専任教員

安 部 泰 代 大分准看護専門学院・教務主任

谷 口 智 子 宫崎看護専門学校医療高等課程·教務主任

有 松 浩 美 同·專任教員

磯 部 知 愛 前·渋谷区医師会附属看護高等専修学校教務主任

永 嶋 由 美 成增高等看護学校·専任教員

### 目 次

☆ 人体のしくみと働き	3
《食生活と栄養	12
☆ 薬物と看護	16
	20
参感染と予防	25
▲ 看護と倫理 2	28
▲ 患者の心理	30
■保健医療福祉のしくみ	32
⇒看護と法律	35
基礎看護	
<b>a</b> 看護概論	39
基礎看護技術 ⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯ ∠	13
₩ 臨床看護概論	61
成人看護	
┆ 成人看護概論 7	70
● 呼吸器疾患患者の看護	72

●循境器疾患患者の有護8
┛消化器疾患患者の看護 87
⑥ 血液・造血器疾患患者の看護 ⋯⋯⋯ 92
↑ 内分泌・代謝疾患患者の看護 9€
● 腎・泌尿器疾患患者の看護 10
● 脳神経疾患患者の看護 ⋯⋯⋯⋯⋯ 108
<b>♥</b> アレルギー疾患・膠原病患者の看護
112
<ul><li>・感染症・結核患者の看護 117</li></ul>
↑ 女性生殖器疾患患者の看護 120
▶ 骨・関節・筋疾患患者の看護 123
◆ 皮膚疾患患者の看護
● 眼疾患患者の看護13
₩ 歯・□腔疾患患者の看護 136
↑ 老年看護 138
母子看護
№ 母性の看護
★小児の看護148
↑ 精神看護

表紙デザイン・イラスト/スタジオダンク,加納徳博本文デザイン/真興社

看護学生 5月臨時増刊号 第68巻第3号 2020年5月10日発行 定価(本体1,500円+税) 「発行よ」小倉改中 「編集よ」柴田一郎 「発行所」株式会社メデカルフレンド社

【発行人】小倉啓史 〔編集人〕柴田一郎 〔発行所〕株式会社メヂカルフレンド社 〒 102-0073 東京都千代田区九段北3丁目2番4号 〒 102-8691 麹町郵便局私書箱48号 振替口座00100-0-114708

http://www.medical-friend.co.jp

(営業部) TEL: 03-3263-7666 FAX: 03-3261-6602 E-mail: eigyou@medical-friend.co.jp

〔『看護学生』編集室〕高橋克郎・松坂清麻・若山美咲

TEL: 03-3264-6618 FAX: 03-3264-0704 E-mail: gakusei@medical-friend.co.jp

〔印刷〕港北出版印刷(株)〔製本〕大日本印刷(株)

●本誌の無断複写は著作権法での例外を除き禁じられています。本誌の複写に関する許諾権は(株)メヂカルフレンド社が保有していますので、複写される場合はそのつど事前に小社(編集部直通 TELO3-3264-6615)の許諾を得てください。

■この雑誌に関するお問い合わせは、『看護学生』編集室までお願いします。



## 人体のしくみと働き

骨学総論	学習日: 月 日
▶四肢の骨は長骨,頭蓋骨は❶_	骨, 手首や足首の骨は
石ころのような2	骨でできている。
▶長骨の骨幹の外層は硬い3	質ででき,内層はスポン
ジ状の <b>4</b> 質でて	ぎきている。 <b>3</b> 質には多数の <b>5</b>
 があり,中には血管7	
▶赤色骨髄は6を	行う。子どもではほぼ全身の骨にあ
	った <b>⊘</b> が増え,赤色
骨髄が残っているのは長骨の❸	部や胸骨,腸骨など
である。	
▶ 骨膜は関節面を除く骨のほぼ <u>≤</u>	<b>と</b> 周を包み,骨を保護し栄養を与え
る。外層は❷や	❶に富んでいる。
▶骨の連結のうち可動結合を関節	 という。関節面は <b>①</b>
で覆われ、周囲は強靱な₩	に包まれている。 🖸 のさ
らに外側には密線維性結合組織	である帯状の <b>⑮</b> があ
り 関節の過度の伸展を防いで	関節を安定させている。

#### メモ

#### 関節の種類

	動き	
<b>@</b>	最も可動性が高い。関節頭が半球状で、あらゆる方向に回転することができる(多軸性)	肩関節, 股関節
<b>6</b>	戸の蝶番のように1方向にのみ動く(1軸性)	腕尺関節,膝関節,指節間関節
<b>6</b>	骨の長軸の回りを車輪のように回る(1軸性)	上・下橈尺関節
<b>D</b>	向かい合う関節面が馬の鞍のような形状で、前後左右に動く (2軸性)	母指の手根中手関節
®	関節頭が楕円体で関節窩はそれに応じた形をとる。前後左右に動く(2軸性)	環椎後頭関節,橈骨手根関節
<b>©</b>	向かい合う関節面が平面に近く、互いにずれるように動く。可 動域は小さい	椎間関節
<b>@</b>	ほとんど運動がない	仙腸関節

▶ 骨の連結のうち、2つ以上の骨の間でほとんど可動性がない連結を 不動結合という。骨と骨の間を埋める組織により、**②** 

と <b>し</b>	。 <b>切</b> には顕蓋骨の <b>切</b> な
ど,②には硝子軟骨で結合	した❷, 線維軟骨結合な
どがある。	
▶骨の機能は、からだの	,運動,臓器の保護,造
血,カルシウムやリンの貯蔵	
**********	
筋の生理	学習日: 月 日
▶骨格筋は①	が束になってできており,意思により動
かすことのできる <b>②</b>	である。隣り合う骨に付着して
	を曲げ,骨を動かしている。
▶骨格筋の両端は,通常4_	を介して骨に固定される。
人体で最も大きい4は5	である。
▶ <b>①</b> は,直径1~2μmの細し	n筋原線維が束になったものである。筋
原線維のなかでは, 🚳	, <b>7</b>
る収縮たんぱく質が交互に	規則正しく並び,❸を形
成する。	
▶ 骨格筋の収縮は、6分子の	集まりである細い❻フィラメントが, ❼
分子の集まりである太いの	フィラメントの間に <b>⑨</b> こ
とによって起こる( <b>⑩</b>	
	のエネルギーが必要である。そ
のため、筋細胞内には4を	産生する❶が多数存在す
る。	
▶骨格筋には,酸素を結合させ	せて運ぶ鉄分子を含む <b>®</b>
というたんぱく質が豊富に	存在する。❸を多量に含むため疲労が少
なく、持続的運動に適してい	いる筋を๋Ф, ๋ ❸が少なく
疲労しやすいが,瞬発力を	もつ筋を <b>⑮</b> という。
体幹の骨と筋	
仲针の有と別	学習日: 月 日 
▶頭蓋は15種23個の骨からな	なり,下顎骨と舌骨以外は縫合か軟骨結
	<b>1</b> 縫合,❷
	_縫合, ❹縫合がある。
	ていない膜様の領域( <b>⑤</b> ,
6)が残って	
▶顔面の筋は皮膚に停止する	7筋で,収縮することで
皮膚が引っ張られ表情をつ	)くるので❸ 筋とよばれ

る。下顎骨には❷筋が停止し咀嚼に働く。	メモ
▶ 脊柱は <b>⑩</b> が重なったもので,頸椎(7個),胸椎(12	
個),腰椎(5個),仙骨,尾骨に分けられる。側方から見ると,頸	
部と腰部で❶彎し,胸部と仙尾骨部で❷	
▶胸郭は,❸(左右12個ずつ)と1個の❹	
, 12個の❶で構成され,心臓,肺などを保護	
する。	
▶❶筋群や斜角筋群は肋骨を動かし,胸式呼吸に関与	
する。	
▶❶は胸腔と腹腔の境となる筋で,腹式呼吸に関与す	
る。	
▶❶筋,外腹斜筋,内腹斜筋,腹横筋などの腹部の筋	
は、腰椎や体幹を屈曲させ、●を上昇させる働きを	
もつ。腹斜筋の下縁は❷である。	
上肢・下肢の骨と筋 紫曜日 日	
3004 73	
▶❶は上腕骨と肩関節をつくる。前腕骨は外側にある	
<b>2</b> と内側にある <b>3</b> からなる。	
▶ 4 は 財関節を屈曲させ, ⑤ は 財関節	
を伸展させる。 <b>4</b> と <b>9</b> のように反対の働きをする筋を <b>6</b>	
という。	
▶ 寛骨は <b>⑦</b>	
らなるが、成人では癒合して1個の寛骨となっている。左右の寛骨	
と仙骨、尾骨は <b>⑩</b> をつくる。 <b>⑩</b> には性差があり、そ	
の一つとして、恥骨下角が女性は男性より	
▶ <b>1</b> は人体最大の管状骨である。 <b>1</b> は	
脛骨, 腓骨の2本の長骨からなる。 はた関係を足典させ、 <b>の</b> はた関系	
▶ 個 は股関節を屈曲させ、 ● は大腿を	
後方に引き股関節を伸展させる。	
<ul><li>▶大腿四頭筋は、膝関節を値させる。膝蓋腱反射で</li></ul>	
は、大腿四頭筋が <b>が</b> する。	
▶下腿三頭筋は、外側、内側腓腹筋と®からなり、下 部は今にて強い <b>®</b> からなり、下	
部は合して強い <b>®</b> となって踵骨隆起につく。下腿三頭筋の収縮により足が <b>®</b>	
頭筋の収縮により足が2する。	

血液	学習日: 月 日
▶血液は、液体成分である	と細胞成分である❷
 からなる。全量約5Lで	
<b>● ①</b> には、水、 <b>③</b> (アル	,ブミン, グロブリン, フィブ
 リノゲンなど), <b>④</b> ,	
つは, 💪 浸透圧の維持	寺である
▶血液のpHは7.4±0.05で一定である	
う。pHが高くなる状態を <b>3</b>	
という。それぞれ呼吸性	生,代謝性がある。
▶赤血球は,成人男性で約⑩	万個/µLあり,色素たん
ぱくの <b>①</b> を含む。 <b>①</b> !	は酸素を結合し全身に運ぶ。
▶血液中に赤血球が占める割合を⑫	といい,男性
45%, 女性40%である。	
▶白血球は色素をもたず,男女とも50	00~8000個/μLある。顆粒白
血球である🚯, 🚇	, <b>©</b>
, 無顆粒白血球である姫	, <b>0</b> [C
分けられる。	
▶ 顆粒白血球のうち, 10	_が最も多く,体内に侵入した
異物を捕捉して貪食し,病原体の感	
▶ 6には、抗体を産生して体液性免疫に	
ンパ球,細胞性免疫にかかわる��	
ラルキラー細胞がある。 <b>⑰</b> は組織に	<b>二移って②とな</b>
り,個に引き続き異物処理に働く。	
▶血小板は,約15万~40万個/µLある	
管の傷をふさぎ, ❷	
▶血液の細胞は②でつぐ	
赤血球、白血球、血小板へと分化し、	成熟する。ただし,Tリンパ
球は49で成熟する。	
▶ヒトの代表的な血液型は◎	式とRh式である。 <b>愛</b> 式
で適合しない血液を輸血するとの_	
Rh式でRh(+)の血液をRh(-)の人	、に輸血することは禁忌である。

心臓の構造	学習日: 月 日
▶心臓は胸腔内で左右の肺にはさまれ,❶	の上に位置
 する。上端の広い部分を <b>2</b>	
ーーーー という。周囲は少量の漿液で満たされた/	
	, <b>6</b>
の3層で構成され,心膜が包む。	
▶心筋は�神経に支配される不	随意筋で,❸
がみられる。	
▶心臓の内腔は,⑨,⑩	, <b>O</b>
, 🗣の4つに分かれて	いる。心臓壁は <b>⑬</b>
が最も厚い。	
▶心臓には大動脈弁,肺動脈弁,左房室弁(❷_	弁),右
房室弁(❶弁) という4か所の	弁膜があり, 血液の
逆流を防いでいる。	
▶心臓の収縮の伝達に特化した❻	_は,洞結節(洞房結
節),房室結節,ヒス束,プルキン工線維の順	に心臓壁に収縮の刺
激を伝える。心臓の収縮はまず⑰	
ここを <b>®</b> という。 <b>®</b> により収約	部の興奮が伝わる道筋
を๋ とよぶ。	
血液の循環	
皿/(文) (日本)	学習日: 月 日
▶ヒトの血液循環は,全身をめぐる●	と,肺のみをめ
ぐる <b>②</b> に分けられる。	
▶全身の静脈血は上大静脈と下大静脈を通って	
り,右心室に集められ,�を追	<b>辿って肺に入る。つま</b>
り❹には❺血が流れている。	
▶肺で酸素を取り込んだ血液は、肺静脈を通って	
戻る。つまり,肺静脈には <b>⑦</b>	
▶左心室から全身に血液を送り出す血管は❸	
▶心臓壁を栄養する <b>⑨</b> は, <b>⑩</b>	
し左右に分かれて心臓を取り巻く。❷の閉塞は	こより心筋に血液が届
かないと、心筋が壊死して心筋の収縮が行われ	いなくなる。この状態

を● という。一方、心臓への血液供給が一時的に不

足したために起こるのが、10 である。

▶子宮内の胎児は肺や消化器がまだ機能していないため、⑥				
を通して母体血から酸素や	や栄養分を供給される。			
<b>▶11</b>	は肺循環に入ろうとする血液			
を体循環に回すしくみである。 🜀	は,胎盤から臍静			
脈を通ってきた血液を下大静脈に	回すしくみである。			
心臓の機能	学習日: 月 日			
▶心臓の機能は,全身に <b>①</b>	を供給するためのポンプ作			
 用である。				
▶心臓は周期的に収縮,拡張を繰り	返す。これを2と			
よぶ。収縮期は約0.3秒,拡張期	は約0.5秒である。心音の第1音			
は心室 <b>3</b> 期の初め	, 第2音は心室❹			
期の初めに生じる。				
▶ 2を単位時間における頻度で表し	」たものを <b>6</b> とい			
う。成人では,安静時におよそ70	)回/分である。成人より幼児が多			
く, 発熱や精神的興奮, 運動によ	って増加する。3が正常より多い			
ものを <b>⑥</b> , 少ない	ものを•2という。			
ものを <b>⑥</b>				
	される血液量を❸			
▶左心室の1回の収縮によって拍出	される血液量を <b>③</b> 5る。1分間に拍出する血液量を			
<ul><li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出 といい,成人男性で約70mLである</li><li>⑤という。</li><li>⑤という。</li><li>⑥ は③</li><li>によって表され,約4~5L/分である</li></ul>	される血液量を <b>3</b> 5る。1分間に拍出する血液量を と1分間の <b>0</b> 5る。			
<ul><li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出 といい、成人男性で約70mLである</li><li>⑤という。 ⑤は⑥ によって表され、約4~5L/分である</li><li>▶ 自律神経系のうち、⑥</li></ul>	される血液量を <b>③</b> 5る。 1 分間に拍出する血液量をと 1 分間の <b>⑩</b> の積 5る。			
<ul><li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出 といい,成人男性で約70mLである</li><li>⑤という。</li><li>⑤という。</li><li>⑥ は③</li><li>によって表され,約4~5L/分である</li></ul>	される血液量を <b>③</b> 5る。 1 分間に拍出する血液量をと 1 分間の <b>⑩</b> の積 5る。			
<ul><li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出 といい、成人男性で約70mLである</li><li>⑤という。 ⑤は⑥ によって表され、約4~5L/分である</li><li>▶ 自律神経系のうち、⑥</li></ul>	される血液量を <b>③</b> 5る。 1 分間に拍出する血液量をと 1 分間の <b>⑩</b> の積 5る。			
<ul> <li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出といい、成人男性で約70mLである。</li> <li>⑤という。</li> <li>⑥ は③</li> <li>によって表され、約4~5L/分である。</li> <li>▶ 自律神経系のうち、</li> <li>⑥</li> <li>董を増加させる。</li> <li>⑥</li> <li>下げ、心拍出量を減少させる。</li> <li>▶ 心筋の活動電位を記録したもの</li> </ul>	される血液量を③			
<ul> <li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出といい、成人男性で約70mLである。</li> <li>⑤という。</li> <li>⑥ は③</li> <li>によって表され、約4~5L/分である。</li> <li>▶ 自律神経系のうち、</li> <li>⑥</li> <li>量を増加させる。</li> <li>⑥</li> <li>下げ、心拍出量を減少させる。</li> <li>▶ 心筋の活動電位を記録したものの興奮、</li> <li>⑥</li> <li>の興奮、</li> </ul>	される血液量を③			
<ul> <li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出といい、成人男性で約70mLである。</li> <li>⑤という。</li> <li>⑤ は③</li> <li>によって表され、約4~5L/分である。</li> <li>▶ 自律神経系のうち、</li> <li>⑥</li> <li>重を増加させる。</li> <li>⑥</li> <li>下げ、心拍出量を減少させる。</li> <li>▶ 心筋の活動電位を記録したもの</li> <li>⑥</li> <li>の興奮、</li> <li>⑥</li> <li>から心室に到着する時間、QRS(</li> </ul>	される血液量を 3 5 5 6 6 7 6 7 7 7 8 7 8 7 8 8 7 8 8 7 8 8 7 8			
<ul> <li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出といい、成人男性で約70mLである。</li> <li>②という。</li> <li>③ は③</li> <li>によって表され、約4~5L/分である。</li> <li>▶ 自律神経系のうち、</li> <li>量を増加させる。</li> <li>予</li> <li>下げ、心拍出量を減少させる。</li> <li>▶ 心筋の活動電位を記録したもの</li> <li>④ の興奮、</li> <li>④ の興奮</li> <li>位 の興奮の消退を</li> </ul>	される血液量を③			
<ul> <li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出といい、成人男性で約70mLである。</li> <li>⑤という。</li> <li>⑤ はいう。</li> <li>⑤ はいう。</li> <li>⑥ はいう。</li> <li>⑥ はいう。</li> <li>⑥ は心室の興奮の消退を押す</li> </ul>	される血液量を③			
<ul> <li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出といい、成人男性で約70mLである。 ②は③によって表され、約4~5L/分である。</li> <li>▶ 自律神経系のうち、①</li></ul>	される血液量を③			
<ul> <li>▶ 左心室の1回の収縮によって拍出といい、成人男性で約70mLである。 ②は③によって表され、約4~5L/分である。</li> <li>▶ 自律神経系のうち、①</li></ul>	される血液量を3 5る。1分間に拍出する血液量を と1分間の00 の積 5る。 一神経は心拍数を上げ、心拍出 神経(迷走神経)は、心拍数を を心電図という。心電図のPは 間隔は興奮が洞房結節 は15 の興奮、16 の興奮、16 の を示す。 7 のことで、18 期血圧(最低 は、13が20 mmHg			

内分泌系総論		学習日: 月	В	メモ	
▶ホルモンは体液, 主に <b>①</b> _	<b>山に分</b> い				
の受容体をもつ <b>2</b>					
の文音体をもり <b>を</b> る。		こ。一世の日マン田のこと	)KW)		
<ul><li>ホルモンの血中濃度はとて</li></ul>		< 10 <sup>-6</sup> ~10 <sup>-</sup>	<sup>-12</sup> ∓		
ル (mol/L) 程度である。		<b>\</b> , 10 10			
<ul><li>ホルモンは化学的に、アミ</li></ul>	: / 酸が重合  ,た <b>4</b>	木	IJ.Ŧ		
ン、アミノ酸が化学的修					
<ul><li>す、ノニン 扱る 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18</li></ul>			,		
·					
全身の内分泌腺とホ	<b>・ルモン</b>	学習日: 月	В		
▶甲状腺は,甲状腺ホルモン					
ニン) を産生する。甲状腺					
を高める。また、傍濾胞細	_		-		
中のカルシウムイオンの濃					
▶代表的な甲状腺機能亢進症	である4	では,新陳	代謝		
が異常に高まり❺					
れる。甲状腺機能低下症で					
声, 皮膚のむくみ(6	) などがみ	⊁られる。生ま	れつ		
き甲状腺の機能が低下し起					
▶副甲状腺は上皮小体ともよ					
は骨からカルシウムを溶か	 Nしだして血液中の <b>9</b>		濃度		
を高め,さらに腎臓におけ	- ける <b>9</b> の再吸収を増加る	 させ,カルシウ	ムの		
血中濃度を維持する。					
▶下垂体は前葉,中間部,後	) (葉の3部からなる。	前葉と中間部は	上皮		
性の腺細胞の集まりなので	<b></b>	下垂体,後葉は	視床		
下部の神経細胞でつくられ	 lたホルモンが神経線約	進内を通って分	泌さ		
れるので, 🕦	下垂体とよばれる。				
▶下垂体前葉からは, <b>⑫</b>			ルモ		
ン、副腎皮質刺激ホルモン	ソ, 性腺刺激ホルモン	( <b>B</b>			
ホルモンと個					
- 分泌される。 <b>⑤</b> は成熟した					
させる。		-			
▶下垂体後葉からは, ⑰	८ <b>1</b> 8	が分	泌さ		

れる。 $oldsymbol{arDelta}$ は $oldsymbol{arDelta}$		ンともよばれ,	腎臓の🐠
	)て水の再吸収を仮		
尿量を減少させる	。18は平滑筋の収縮	宿に働き, 分娩	に関与する。ま
た乳汁の <b>②</b>	を促す。		
▶副腎皮質は表層な	N5 <b>@</b>	, <b>3</b>	, <b>4</b>
	層に区別される。€	<b>2</b> からは <b>②</b>	, <b>3</b>
からは <b>26</b>	, <b>2</b> からはタ	見性ホルモンを	分泌する。副腎
皮質ホルモンはコ	レステロールからこ	⊃くられる <b>Ø</b> _	
ルモンである。			
▶副腎髄質は,代表	的なカテコールア	ミンである23_	<u>,</u>
29	を分泌する。		
▶松果体は30	を分泌する	る。幼は性腺に	対する抑制作用
をもつほか, 24時	間周期の30	リズム	ふをつくる。
▶膵臓には,外分泌	が部の間に島状に存	字在する内分泌	必細胞の集まり
( <b>②</b>	_) があり,ここか	ら3種類のホル	ルモンが産生分
泌される。A(a)約	細胞は33	, B(β)#	⊞胞は∰
	∄胞は❸		
ンを分泌し,🚳_	の調節	節を行う。3ほ	は糖新生に働き,
<b>③</b> はグルコースの	利用を促進する。制	唐尿病は��	の分
泌不足または作用	低下によって起こる	5.	
▶精巣,卵巣からは			
ともよばれる。精	巣からは <b>⑨</b>	が分泌	され、男性生殖
器を発達させ,精	子の産生が始まり,	二次性徴であ	る男性の声変わ
	体毛の出現などを起		
▶卵巣から分泌され			
の発育を促進し,	乳房,乳腺を発達	させる。また	女性の二次性徴
(脂肪,発毛,女性	生らしい体つき) の	発現にもかかれ	つる。 <b>4</b>
は排卵後責	<b>責体で産生されるの</b>	)で,黄体ホル	モンともいわれ
る。幼は子宮に作	用し受精卵を受け	入れるための	準備状態をつく
り,さらに <b>@</b>	を抑制し	ノ,妊娠を持続	させる。



#### ◆骨学総論

順不同→900

●扁平 ②短 ③緻密 ◆海綿 ⑤中心管(ハバース管) ⑥ 造血 ②黄色骨髓 ③骨端约 ⑤神経 ⑩血管 ⑪(硝子)軟骨 ②関節包 ⑧軟帶 ⑭球(白状)関節 ⑤蝶番関節 ⑩車軸関節 ⑰鞍関節 ⑱脊門関節 ⑲平面関節 ㉑樂維性連結 ❷軟骨性連結 ❷縫合 ㉑軟骨結合 ㉓支持

#### ◆筋の生理

●骨格筋細胞(線維)
 ②随意筋
 ③関節
 ◆腱
 ⑤アキレス腱
 ⑥アクチン
 ⑦ミオシン
 ③横
 紋
 ○滑り込む
 ⑩滑り
 ⑪アデノシン3リン
 酸(ATP)
 ⑫ミトコンドリア
 ⑱まオグロビン
 ④赤筋
 ⑤白筋

#### ◆体幹の骨と筋

順不同→0~4. 66

●冠状
 ②矢状
 ③ラムダ
 ●藤状
 ⑤大泉
 門
 ⑥小泉門
 ⑦皮
 ③表情
 ④咀嚼
 ⑩椎骨
 ⑪肺
 ⑩腹戸
 ⑩腹圧
 ⑩泉皮

#### ◆上肢・下肢の骨と筋

順不同→6~9

申肩甲骨 ②橈骨 ③尺骨 ④上腕二頭筋
 ⑤上腕三頭筋 ⑤拮抗筋 ⑦腸骨 ③恥骨
 ⑨坐骨 ⑩骨盤 ⑪大き ⑫大腿骨 ⑱下腿骨
 ⑭腸腰筋 ⑤大殿筋 ⑯伸展 ⑰収縮 ⑱ヒラメ ⑩踵骨腱(アキレス腱) ⑳底屈

#### ◆血液

順不同→鳴~鳴

●血漿 ②血球 ③たんぱく質 ④脂質 ⑤糖質 ⑥膠質 ⑦酸塩基平衡 ③アルカローシス ④アシドーシス ●500 ●ヘモグロビン(Hb) ●ヘマトクリット ③好中球 ●好酸球 ⑤好塩基球 ⑥リンパ球 伊単球 ⑧好中球 ⑨B ②T ②マクロファージ ②血液凝固 ②骨髄 ②造血幹細胞 ②胸腺 ③ABO ②赤血球

#### ◆心臓の構造

順不同→9~12

●横隔膜 ②心底 ③心尖 4心内膜 ⑤心筋層 ⑥心外膜 ⑦自律 ⑧横紋 ⑨右心房
 ⑩右心室 ⑪左心房 ⑫左心室 ⑱左心室
 ⑪僧帽 ⑮三尖 ⑯特殊心筋線維 ⑰洞結節
 (洞房結節) ⑱ペースメーカー ⑲刺激伝導系

#### ◆血液の循環

順不同→個個

●体循環 ②肺循環 ③右心房 ④肺動脈
 ●静脈 ⑥左心房 ⑦動脈 ③上行大動脈
 ⑨冠状動脈 ⑩大動脈基部 ⑪心筋梗塞 ⑫狭心症 ③胎盤 ⑭卵円孔 ⑤動脈管(ボタロー管) ⑩静脈管(アランチウス管)

#### ◆心臓の機能

#### ◆内分泌系総論

●血液(血) ②標的 ③低 ④ペプチド ⑤アミノ酸誘導体 ⑥ステロイド

#### ◆全身の内分泌腺とホルモン

順不同→2323

●サイロキシン ②代謝 ③カルシトニン
●バセドウ病 ⑤頻脈 ⑥粘液水腫 ⑦クレチン病 ③パラトルモン ⑨カルシウムイオン
●腺 ●神経 ⑫成長 ⑧卵胞刺激 ⑭黄体
⑤プロラクチン ⑥乳汁 ⑰バソプレシン
⑧オキシトシン ⑩抗利尿 ②集合管 ②放出
②球状体 劉東状体 ②網状体 ③電解質コルチコイド ②糖質コルチコイド ②オテロイド
③アドレナリン ②ノルアドレナリン ③メラトニン ⑪日内(日周・概日) ②ランゲルハンス島 ③グルカゴン ④インスリン ⑤サルスタチン ⑤血糖値 ⑥インスリン ⑤性腺
③テストステロン ⑩エストロゲン ⑪プロゲステロン ⑫排卵